

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	桑原 隆一
論文担当者	主査 波多野 悦朗
	副査 山本 新吾
	副査 橘 俊哉
学位論文名	The effect of changing surgical instruments prior to wound closure to prevent wound infection in lower gastrointestinal surgery: a randomized controlled trial (下部消化管外科手術における閉創前器具交換の創感染予防効果:ランダム化比較試験)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>手術部位感染 (Surgical site infection: 以下 SSI) は主要な術後合併症である。SSI を低下させるために様々な研究が行われてきたが、手術器具交換単独の有効性についての報告はない。申請者らは下部消化管外科手術の閉創前手術器具交換の切開創 SSI 予防効果について検討した。</p> <p>2017年8月～2019年8月に当院で下部消化管の開腹手術を受けた448名のうち、A群は閉創前に手術器具を交換する群、B群は従来閉創を行う群として無作為に振り分けた。A群224名のうち不適切な器具交換があった11名を除いた213名とB群224名を解析の対象とした。主要評価項目は、全体(すべての創分類を含む)の切開創 SSI の発生率とし、サブグループ解析として創分類2(術中に汚染の多くない腸管手術)、創分類3以上(術中に便汚染のあった下部消化管手術、瘻孔症例)の切開創 SSI の発生率を検討した。切開創 SSI の発生率は、A群(18/213; 8.5%)とB群(24/224; 10.7%)で両群間に有意差は認めなかった(p = 0.78)。創分類2のみの検討では切開創 SSI の発生率は、A群で13/191(6.8%)、B群で9/190(4.7%)でこれも両群間に有意差を認めなかった(p = 0.51)。創分類3以上についても切開創 SSI の発生率は、A群で4/20(20.0%)、B群で15/31(48.3%)で両群間に有意差を認めなかった。(p=0.142) 本研究における切開創 SSI の危険因子は多変量解析にて創分類3以上(OR 6.601、95%CI 2.976-14.60)のみであった。以上より閉創前の手術器具交換は下部消化管手術患者の切開創手術部位感染を予防しなかった。</p> <p>本研究は、臨床的に大変意義ある研究であることから学位論文に値すると判断した。</p>	